

倶多楽火山

大正地獄では2011年5月16日の噴騰活動以来、50ℓ/分前後の熱水流出が続いていたが、約7ヶ月ぶりに噴騰活動を示唆する地動、熱水温度変化が2012年1月22日05時過ぎ、および11時前に観測された。

これに先立ち220~230℃を保持していた熱水の地化学温度は11月上旬にやや上昇したように見えるが、熱水温度、日和見山の温度は一連の活動開始前よりも高い状態で推移しているものの変化は認められない。

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2012年1月22日の活動は、これまでの噴騰活動とは異なり、活動に伴う熱水温度の上昇が認められず、噴騰も、明瞭な噴騰の痕も確認できなかった注)。活動終息後、地動レベルは熱水流出停止時の状態にまで低下しなかったものの熱水流出量の減少を示唆し、また熱水温度は噴騰活動停止後と同様に回復に転じた。これらのことから、今回は一時的に熱水流出量が増大したものの噴騰まで至らずに終わった活動と推測される。

これ以降も大正地獄からの熱水流出は続き、2月16日の熱水流出量は約33ℓ/分と9/27日の27ℓ/分と大差ない。

注)噴騰が始まると沼面は灰色に混濁し、波紋や湯柱が認められる。終息後、灰色だった湯面は時間とともに緑~黄色に変わる。



写真1. 2011年1月22日11時頃の噴騰活動前後の大正地獄湯面の变化. 赤丸で示した湯沼内の岩に着目すると活動開始直後(中段)には認められなくなり、水位が上昇していることがわかる。

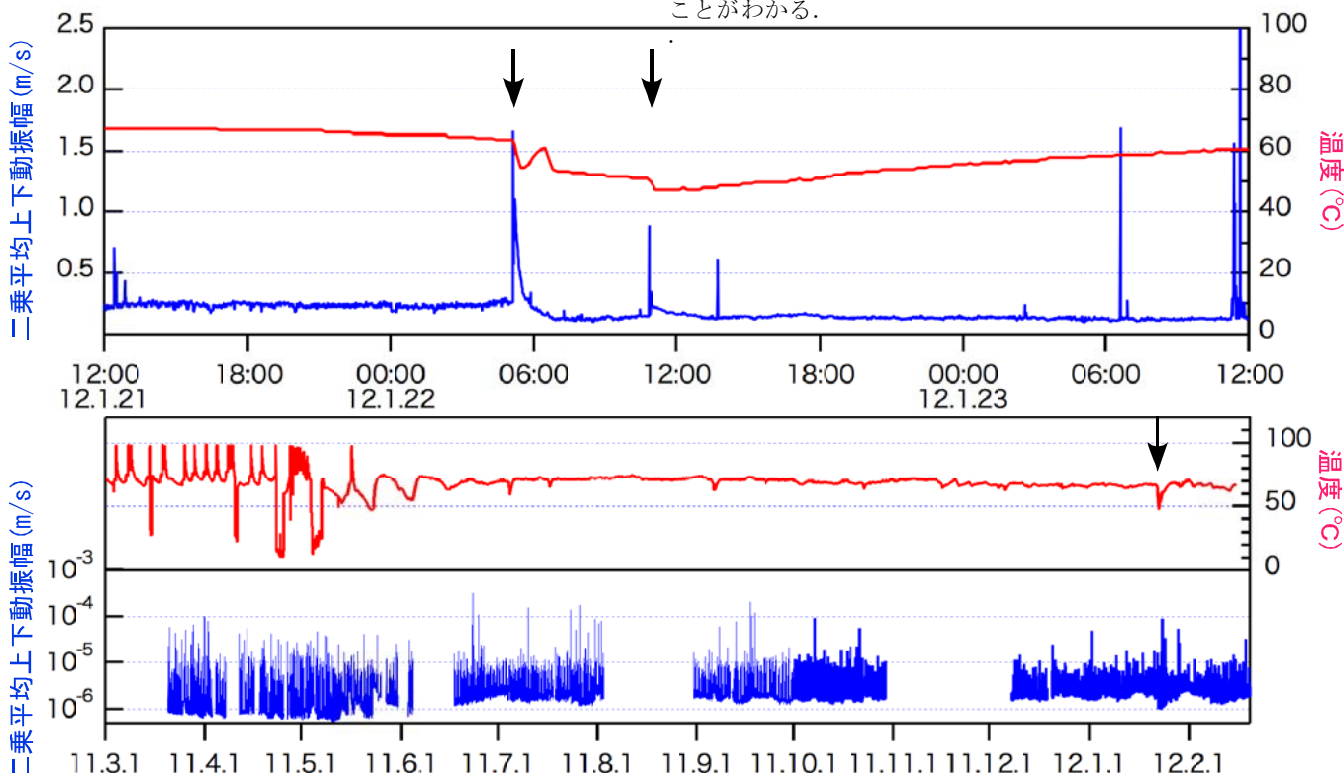


図1. 二乗平均上下動振幅(黒線)及び大正地獄底部付近の熱水温度(赤線)の時間変化. 上段は2012年1月22日の活動前後の状況、下段は11年3月下旬から2012年2月中旬までの状況. なお熱水温度のサンプリング周期は10分、また図中の下矢印が今回の活動を示す。

(大島・安孫子・前川)

倶多楽火山